

一般社団法人 岩の力学連合会  
平成 30 年度・第 3 回常任理事会 議事録

日時	平成 31 年 1 月 11 日 13:00～16:10	場所	資源・素材学会会議室
----	------------------------------	----	------------

常任理事会	理事長	新 孝一	○	副理事長 (賞選考)	岸田 潔	●	幹事長 (総務)	岡田 哲実	○
	常任理事 (編集) (地盤)	谷 和夫	○	常任理事 (資源・素材)	伊藤 高敏	×	常任理事 (土木)	清木 隆文	○
	常任理事 (材料)	西村 強	●	常任理事 (前幹事長)	長田 昌彦	×	常務理事 (国際技術)	横尾 敦	×
	常務理事 (電子 J)	児玉 淳一	×	常務理事 (RockNet)	小山 倫史	○	常務理事 (賛助会員 特別会議)	奥野 哲夫	○
	ISRM 副総裁	清水 則一	●	オブザーバ (YSRM 幹事長)	安原 英明	●	オブザーバ (RDS 委員長)	藍檀 オメル	×

敬称略順不同, ○: 出席, ×: 欠席, ●: スカイプ出席

配 付 資 料

資料番号	頁	資 料
資料 30-常任 3-01	1	平成 30 年度・第 2 回常任理事会議事録 (案)
資料 30-常任 3-02	7	平成 30 年度・第 2 回理事会議事録 (案)
資料 30-常任 3-03	13	平成 30 年度・第 3 回理事会 (書面審議) 議事録 (案)
資料 30-常任 3-04	14	会員の入退会
資料 30-常任 3-05	16	国際シンポジウム 2019RDS
資料 30-常任 3-06	27	国際シンポジウム YSRM2019&REIF2019
資料 30-常任 3-07	45	編集委員会
資料 30-常任 3-08	50	国際技術委員会, ILC 研究企画特別委員会
資料 30-常任 3-09	54	連合会賞選考委員会
資料 30-常任 3-10	55	総務委員会
資料 30-常任 3-11	56	賛助会員特別会議
資料 30-常任 3-12	67	岩盤力学シンポジウムにおける JSRM セッション
資料 30-常任 3-13	79	講習会 (岩盤工学基礎講座)
資料 30-常任 3-14	82	代議員選挙について
資料 30-常任 3-15	106	予算執行状況

【議 題】

- 平成 30 年度 第 2 回常任理事会議事録の承認\* (岡田) 資料 30-常任 3-01  
修正なく議事録は承認された。
- 平成 30 年度 第 2 回理事会議事録の確認 (岡田) 資料 30-常任 3-02  
議事録の確認が行われた。特に質疑はなかった。
- 平成 30 年度 第 3 回理事会 (書面審議) の確認 (岡田) 資料 30-常任 3-03  
議事録の確認が行われた。特に質疑はなかった。
- 会員の入退会の承認\* (岡田) 資料 30-常任 3-04  
慰留を試みた 1 名 (大塚氏) については, 慰留できたことが報告された。また, 平成 30 年 10 月 5 日  
～平成 30 年 12 月 28 日の会員の異動に対して, 2 名 (片岡氏, 浅沼氏) の入会と 1 名 (黄氏) の学生会  
員から正会員への変更が承認された。黄氏はロジャメダルの申請のため, 正会員になっていただいたこ

とが報告された。その後、以下の質疑があった。

- Q. 大塚氏の所属がボスポラス作業所となっているが現在は技術研究所に所属されてるのではないか。  
A. 所属については修正することとしたい。

5. 国際シンポジウム 2019RDS について (清木)

資料 30-常任 3-05

2019RDS の最新の予算書が紹介され、以下の質疑があった。

- Q. 講演者に謝金を支払った場合の税金はどこに記載されているのか。  
A. 謝金の 169000 円は税金込みの金額である。よって、その金額から税金を引いた金額を講演者に渡すことになると思う。  
C. 予算書には税金と分けて記載した方がよい。  
A. 承知した。  
Q. 収入、支出ともに一部不確定なものがあると思うが、どの部分か。  
A. 収入については、参加者数が論文投稿者数 +  $\alpha$  で想定している。また、スポンサーと補助金については、予算書より少し増える可能性がある。支出については、黄色のハッチで示した部分が現在見積もりを依頼している部分なので、金額が変わる可能性がある。  
Q. ISRM の上納金が不要になったと説明があったが、YSRM についても同様か。  
A. ISRM のスペシャライズドコンファレンスについては、ISRM の規程の変更で上納金が必要なくなったので、YSRM についても同様である。  
Q. 会議費の中でレセプション費用が計上されているが、これはウェルカムレセプション費用のことか。  
A. その通りである。  
Q. バンケット費用はどこに記載されているのか。  
A. バンケット費用は収入と支出がバランスするので、予算書には記載されていない。  
C. その場合でも記載が必要である。  
A. 承知した。修正する。  
Q. 人件費のところ、当日運営アルバイトとして 28 万円ほど計上されているが、これは謝金になるのか。また、その 1 行下にアルバイト宿泊費が 20 万円ほど計上されているが、この金額についても別途支払うことになるのか。  
A. アルバイト費は謝金ではなく、アルバイト宿泊費がアルバイトの謝金を含む形で支払われる形になると思う。高いホテルを安く泊まってもらうため、工夫して別に計上されていると思う。  
Q. その場合、二重に税金を払うことになるので、もったいないのではないか。  
A. 税金のことを考えて、再検討したい。  
C. 国内のアルバイトは 8000 円だったら、源泉徴収されないのではないか。  
A. よくわからないので調べたい。  
C. 税金のことは、JSRM の経理の方と相談して再検討した方がよい。

次に、2019RDS の一部の講演者に対する旅費の支払いについて、理事会当日の午前のメールのやりとりが紹介された後、旅費の支払いについては、取り下げることが紹介され、以下の質疑があった。

- C. 2019RDS の実行委員会で決定してから理事会に諮るべきである。また、旅費を支払うのであれば、講演者全員に支払うべきである。  
A. 旅費の件については、実行委員会で再検討したい。

次に、2019RDS の Web ページでのオフィシャルホテルの申し込みの案内、エクスカージョンの案などが紹介された。特に質疑はなかった。

以上より、2019RDS の内容、最新の予算書については基本的に了承された。指摘の意見を踏まえ、修正した予算書を次回の理事会で紹介していただくこととなった。

6. 国際シンポジウム YSRM2019&REIF2019 について (安原) 資料 30-常任 3-06

YSRM2019&REIF2019 の準備状況が紹介された。また、1月29日に運営幹事会が開催され、予算書も若干修正が入ることから、その結果については次回の理事会で報告することになった。以上より、YSRM2019&REIF2019 の内容については基本的に了承された。

7. 各委員会の活動状況報告、事業報告、次年度予算

1) 編集委員会 (谷) 資料 30-常任 3-07

10/26 の編集委員会の概要と岩の力学ニュースの 130 号の内容が紹介された。また、平成 30 年度の事業報告および平成 31 年度の事業計画と予算案が示され、以下の質疑があった。

- C. 編集委員会の議事録に「元留学生」との記載があるが違和感がある。
- A. 適切な表現に修正する。
- Q. 以前、岩の力学ニュースで One Petro の使用方法の紹介があったが、最近 Web が更新され、以前と使用方法が変わっており、Rock Net 委員会の深堀さんより、その使用方法の説明資料が 3 役宛てに送られてきた。どこかの号に掲載することは可能か。
- A. ページに余裕があれば可能なので、1 ページくらいの原稿を用意してほしい。
- C. 幹事長より深堀さんに依頼することとしたい。
- Q. 岩の力学ニュースの PDF 化については、今年度中で全て終了するという理解でよいか。
- A. その通りである。次年度の予算は、旅費、印刷費、謝金のみであり、例年の予算と同額を計上している。

2) 国際技術委員 (岡田) 資料 30-常任 3-08

平成 30 年度の事業報告および平成 31 年度の予算案が示され、特に質疑はなかった。

3) ILC 研究企画特別委員会 (岡田) 資料 30-常任 3-08

11/16 に開催された意見交換会の概要が紹介された。また、平成 30 年度の事業報告および平成 31 年度の予算案が示された。特に質疑はなかった。

4) 電子ジャーナル委員会 (児玉) 資料なし

特に報告はなかった。

5) 連合会賞選考委員会 (岸田) 資料 30-常任 3-9

連合会賞選考の状況が報告された。また、平成 30 年度の事業報告および平成 31 年度の予算案が示され、以下の質疑があった。

- Q. 賛助会員特別会議で昨年提言した賛助会員表彰については、どのような状況か。
- A. 賛助会員表彰を行うかどうかは理事会で決めるべきである。決まれば、表彰委員会でその内容やルールを検討したい。
- C. 以前理事会で議論した際には、賛助会員表彰については賛助会員の多数が必ずしも要望しているわけではないことから、先送りされたように記憶している。
- C. 賛助会員表彰については、次回の理事会でもう一度議論することとしたい。
- C. 賛助会員の継続年数で表彰すると、多数の賛助会員が同時に表彰されることになる。
- A. 賛助会員のランクで差をつけることは可能である。
- C. 継続年数ということであれば、50 周年時点で一旦、賛助会員に感謝状を贈り、そこから新たに

10年とか、15年で表彰する案もある。

- A. 賛助会員のランクで差をつけて表彰すると、ランクを意識していなかった会社がランクを下げる要因になる可能性がある。
- C. 地盤工学会では10年表彰とか、25年表彰とか、ランクごとに実施していたように思う。地盤工学会ではランクは公表されていたと思う。
- Q. 表彰制度全体の見直しも含めて、岸田委員長に検討をお願いできるのであれば、論文賞に若手の賞があってもよいのではないかと思う。また、個人的な意見であるが、盾はいらないと思う。
- A. 論文賞に若手の賞を作るのは賛成である。盾の件も含めて、表彰委員会で議論していきたい。

以上より、理事会での議論と平行して、表彰委員会においても、表彰制度全体の見直しを含めて検討することとなった。

#### 6) 総務委員会（岡田）

資料 30-常任 3-10

平成30年度の事業報告および平成31年度の予算案が示された。予算案については、予備費的な位置づけで、昨年よりも40-50万円ほど総務委員会の予算を増額することが提案された。特に異論や質疑はなかった。

#### 7) 賛助会委員特別会議\*（奥野）

資料 30-常任 3-11

11/8に開催された賛助会員特別会議運営企画特別委員会、12/12に開催された賛助会員特別会議の概要が紹介された。また、平成30年度の事業報告および平成31年度の予算案が示され、以下の質疑があった。

- Q. 賛助会員特別会議だけではなく、全委員会に関連するが、予算は全て税金込み記載になっており、次年度消費税が上がることを予算に反映しておく必要があるのではないか。
- A. どのように対応すべきか JSRM の事務局と相談したい。
- C. 謝金の JSRM としてのルールがないので決めた方がよい。

※ ここで奥野理事より、次回の理事会から5月末ごろまで JSRM の理事会、委員会に参加できなくなったことが報告された。これに伴い、奥野理事については、理事の資格を休止扱いとすることが承認された。

#### 8) Rock Net 委員会（小山）

口頭のみ

岩の力学ニュースを公開するための会員限定の Web ページは作成可能であり、その準備をしていることが報告され、以下の質疑があった。

- C. 新しい岩の力学ニュースは会員限定でよいが、古いものは会員限定にしなくてもよいと考えている。
- C. 古いものは、公開について記事の著者に承認をもらっていない、つまり著作権の委譲ができていないため、一般への公開はリスクが高い。

以上より、岩の力学ニュースについては、全て会員限定で公開することとなった。

#### 8. 岩盤力学シンポジウムにおける JSRM セッション（清木）

資料 30-常任 3-12

岩盤力学シンポジウムにおける JSRM セッションについて、当日のスケジュールの紹介があり、以下の質疑があった。

- Q. 岸田副理事長に講演に先立ちご挨拶していただくことは可能か。

- A. 所用があり、シンポジウムには参加しない予定である。
- Q. では岡田幹事長にお願いしたいが可能か。
- A. 承知した。
- C. 岡田幹事長の挨拶の後、ご講演をしていただき、その後に質疑をして、時間が来たら終了としたい。また、シンポジウムに参加される方は、質疑にご協力いただきたい。

以上より、翌日に開催される岩盤力学シンポジウムにおける JSRM セッションのスケジュールが決まった。

9. 賛助会員特別会議提言を受けた講習会（岡田） 資料 30-常任 3-13  
 岩盤工学基礎講座の Rock Net での参加者募集が始まり、18 名限定のところすでに 10 名を超える応募があったことが紹介され、以下の質疑があった。

- Q. 参加者のリストについては事前に講師にいただきたい。
- A. 承知した。
- Q. CPD はつくのか。
- A. JSRM としては参加証明書を発行し、それを自己申請していただくこととなる。
- C. 参加証明書については事務局と相談して作成する。

10. 代議員選挙について\* 資料 30-常任 3-14  
 代議員選挙の選挙要領が Rock Net で告示されたこと、各学会に理事および代議員の推薦依頼文書を送付することなどが紹介され、以下の質疑があった。

- Q. スケジュールについては事務的に進めていかなければならないが、代議員と理事の人選については、具体的にはどのように進むのか。
- A. 各学会の代表理事に各学会から推薦する理事と代議員の候補者を挙げていただき、次期の理事長候補者に、その案を送付することにしてはどうか。
- C. 次々期は地盤工学会が幹事学会なので、候補者が重なりやすい地盤工学会と土木学会は事前に調整する必要がある。
- C. 土木学会については候補者は概ね決まっている。
- Q. 日本材料学会はどのように人選するのか。
- A. 11 月初め頃に岩盤力学委員会があり、委員会の委員長の笹尾さんに推薦の依頼があることを話しており、その際に具体的な名前も挙がっていたので、人選はスムーズに進むと思われる。
- C. 資源・素材学会と他の 3 学会が人選でバッティングすることはないと思われるので、3 学会から速やかに資源・素材学会に候補者を連絡し、その後、資源・素材学会で調整する段取りとしたい。
- C. 地盤工学会は母体の岩盤に関する岩盤力学企画委員会がないので、地盤工学会の代表理事である谷先生、小山先生、斉藤さんで決めてはどうか（補足：実際には残っており、横尾委員長と谷が相談して人選を進めている）。
- Q. 各委員会の委員長は常任・常務理事を兼ねるので、各委員会の委員長はどのようにして決めるのか。
- C. 各委員会の継続性の観点から、現在の委員会の委員長の意見も聞く必要がある。

以上より、遅くとも 1/28 までには代議員のリストを確定するため、各学会の代表理事が各学会推薦の理事（地盤工学会 3 名、土木学会 3 名、日本材料学会 2 名）と代議員の候補（各学会 4 名）を次期理事長に 1/22 くらいまでに連絡し、その際に委員会の継続性の観点から委員長についても既に候補者（理事兼任）がいれば併せて連絡することとなった。

※ここで、代議員選挙及び役員選任に関する内規を確認すると次の記載があった。

(代議員の公募)

第3条 代議員候補者は、最初の4組織団体からの推薦各3名、公募もしくは幹事学会の推薦による4名の計16名を原則とする。

ところが、過去3期の実績を見ると各学会から代議員が各4名選定されており、上記内規と異なることが明らかとなった。そこで、実態に合わせ、内規を次のように変更することとなり、承認された。

(代議員の公募)

第3条 代議員候補者は、公募もしくは最初の4組織団体からの推薦各4名の計16名を原則とする。

## 11. その他

- ・ 予算の執行状況 (岡田) 資料 30-常任 3-15  
予算が適切に執行されていることが紹介された。特に質疑はなかった。
- ・ ISRM の副総裁選について (新) 資料なし  
ISRM の副総裁選に日本として岸田副理事長を推薦することが提案され、異議なく了承された。
- ・ 2018 ISRM Council Meeting & Asian Council Meeting (新) 資料なし  
2018 ISRM Council Meeting と Asian Council Meeting において、次回の ISRM コングレスにオーストリアが決定したこと、また、次回の ARMS のホストに中国が決定したことが紹介された。また、Statutes と By-laws の改定により ISRM の対象分野が広がったこと、国際会議において他学会との共催が可能になったことなどが報告された。特に質疑はなかった。
- ・ 新しい岩盤科学技術の創生について (岡田) 資料なし  
岩盤力学に関するシンポジウムにおける講演会を契機として、岩盤科学技術の創生を目指すため、研究特別企画委員会を立ち上げてはどうかとの提案があり、特に異論は出なかった。

## 12. 今後の予定

社員総会については、5/31 を第一候補として調整することが決まった。

※ 決議・承認事項

以上